

## 第 29 回 校内スピーチコンテスト マレーシアのルイさん、快挙！ 史上初・2 年連続で最優秀賞

7 月 25 日、ハイライフプラザいたばしにて校内スピーチコンテストを開催しました。出場したのは各クラスの予選を勝ち抜いた 6 か国 14 名。審査の結果、最優秀賞は、昨年続き Lwee Xiao Yu Evelyn さん(マレーシア)が獲得しました。JET 史上初の 2 連覇です。留學生活の中で、自分自身にどのような変化があったのかを流暢な日本語で語りました。独自の視点と高い日本語力が評価されました。

優秀賞には、韓檀悦さん(韓国)、Layla Felina Hazani さん(インドネシア)、頼萱芸さん(台湾)の 3 名、努力賞には Janine Intansari さん(インドネシア)が選ばれました。

### 各方面からの協賛

入賞者には、後援会から賞品が贈られました。滝野川上町親和会のご支援もいただきました。

最優秀賞の Lwee さんには、東京ディズニーリゾートのペアチケットが贈られました。優秀賞は①読書セット、②和セット(輪島塗のお椀・スプーン)、③サンシャイン水族館ペアチケットのいずれか。努力賞は「先生のふるさとの一品」で、今年は佐原(千葉県香取市)出身の木村先生と郷野先生が選んだ、地元の名産セットが贈られました。輪島塗のセットは、今年も漆工芸作家の垣内幸彦様からご提供いただきました。

また、今回のコンテストでは、(株)CASIO 様よりご協賛を賜りました。審査員特別賞として、Khaw Yee Liang さん(マレーシア)が表彰され、電子辞書が贈られました。

スピーチの後で、夏の短期コースの学生の発表も行われました。H クラスは歌の披露、I クラスは国のおすすめの観光地やお土産について紹介をし、会場を盛り上げてくれました。(郷野)



(2 面にも関連記事)

## Lwee さん 372 点で世界最高 進学クラス平均、世界平均を 34.3 ポイント上回る 6 月の日本留學試験(EJU)結果

「日本語」校内ベスト 3 (400 点満点)				
順位	クラス	氏名	出身	得点
1	A	Lwee Xiao Yu Evelyn	マレーシア	372
2	A	盧 聖堯	台湾	355
3	A	葉 曉蓉	台湾	352
4	A	Kakikawa Sena	タイ	351
5	A	張 雋彦	マカオ	340

6 月 16 日に世界 70 の国・地域で実施された 2024 年度第 1 回日本留學試験(EJU)の結果が、7 月下旬に発表されました。国内外の総受験者数は 22,688 名でした。JET からは在校生計 28 名(うち進学クラス 27 名)が受験しました。

試験の結果、Lwee Xiao Yu Evelyn さん(マレーシア)が日本語で 372 点を獲得し、全受験者の最高得点を記録しました。Lwee さんは 2023 年 11 月にも受験していますが、約半年でスコアを 21 ポイント伸ばし、快挙を成し遂げました。JET の学生が世界最高点を記録したのは、2010 年に EJU が始まって以来 5 人目となります。

進学クラス(A、B)の平均点は 271.6 点で、全受験者の平均 237.3 点を 34.3 ポイントも上回りました。

### 日本語各科目で世界最高点続出

得点状況を分野別に見ると、「読解」(200 点満点)では、Lwee さん、葉曉蓉さん(台湾)、楊祚承さん(台湾)、Cheah Jing Le さん(マレーシア)の 4 名が世界最高の 198 点をマークしました。進学クラスの平均は 151.3 点で、全受験者の平均 135.0 点を 16.3 ポイント上回りました。

「聴読解・聴解」(200 点満点)では、Lwee さんが世界最高点の 174 点でした。次いで盧聖堯さん(台湾)が 163 点、Kakikawa Sena さん(タイ)が 162 点を記録しました。進学クラスの平均は 120.3 点で、全受験者の平均 102.3 点を 18 ポイント上回っています。

「記述」(50 点満点)では、盧さんが満点を獲得しました。

### 基礎教科でも好成績

EJU では、日本語の他に数学や理科などの基礎教科の試験もありますが、文系の分野では、張雋彦さん(マカオ)が「総合科目」(200 点満点)で校内最高の 185 点でした。

また、理系の分野では、Lilian Angelica Chandra Tan さん(インドネシア)が「数学」、「化学」、「生物」の合計(400 点満点)で校内最高の 237 点を獲得しました。

【第29回校内スピーチコンテスト最優秀賞】

# 「日本人になりつつある私」

Lwee Xiao Yu Evelyn (A クラス)



皆さんこんにちは、AクラスのLwee Xiao Yu Evelynです。マレーシアから参りました。本日、私は日本での生活の中で無意識に変わっている自分についてお話ししたいと思います。

まず、食文化に対して気がついたことから始めたいと思います。今更？と思う人がいるかもしれませんが、これはじわりと効いてくるものだと感じました。例をあげます。私は約二ヶ月前に友人と食事をする時、一口で食べられる唐揚げを手で取ろうとしました。これは周りの日本人と外国人の友人をひどく驚かせたようです。自分の常識だったとはいえ、当然気にする人もいるので今後気をつけようと決めました。また目の前で調理するラーメン屋や海鮮料理屋などといった伝統的な店では、思わず自分の食事マナーに注意を向けてしまいます。日本に来たばかりの時は気にしなかったのに今は食事後改めてマナーについて調べ、次から正しくかつ楽しく食べようと思うようになりました。身振り手振りは物を言うと言いますし、これが一種の勉強に繋がるのではないのでしょうか。

それから、これを変えねばと思ったことはやはり語学力に対する意識です。日々日本語を使っていると、他の言語を疎かにしてしまうことは多々ありました。例えば、私は徐々に国にいる友人と話す時に、友人は中国語で「你知道吗?有这种事情发生了哦(ねえ知ってる?こんなことがあったよ)」、私はそれに対し日本語で「へーそうなんだ」と、このように日本人ならではの相槌言葉を使ってしまい、とても恥ずかしい思い出になりました。留学生の皆さんもこういった経験はあるのではないのでしょうか。

私は今年の4月基礎科から進学クラスに入り、日本人と接する機会が増えました。日本人の大学生や大学の関係者などと接する中で私はあることに気がつきました。それは日本語能力が高まるに伴い、言葉選びをかえって難しく感じたことです。例えば、食事に誘われた時「すみません、今日は予定があるのでまた今度誘ってください」や意見がすれ違った時の円滑な伝え方「うーんそれはちょっと…」というような言葉、その上相手の言葉の裏を読むことを考えなければなりません。気にも留めなかったことに意識を傾けるようになり、話すことに躊躇してしまうことが多々ありました。これは日本の生活に慣れたからこそ遠慮と配慮をするようになったこと、すなわち日本の文化が知らず知らずに浸透してきた証拠なのではないのでしょうか。

環境に慣れたことは良いことではありますが、現状に満足し、新たな挑戦をしなくなる傾向が著しくなりました。

そのほかにも、私は留学を通じて自己管理を重視するようになりました。特にメンタルのケアを心がけながら自身の精神や健康状態を安定させ、自分の能力を最大限に発揮できるように生活を送っています。留学先の一人暮らしの中で人間関係や不慣れなどのストレスは付き物です。だからこそ私は自分一人の時間を大切に、常に振り返って反省し、そしてきちんと考えてから潔く寝ることを習慣にしています。時々好きなことを適度に楽しんで明日からまた頑張ろうというのも悪くありません。日本人らしいかどうかはわかりませんが、ささいなことにこだわらず、おおらかに物事と接することが非常に重要だと思えるようになりました。

このように、旅行のような楽しいことばかりに注目するのではなく、自分を探っているこの過程に焦点を当てることこそ留学の意義であるとも言えましょう。日本の文化を楽しみながら自分自身の変化に気づくことも楽しいことなのではないでしょうか。私は周りの留学生を見て、それに気づき、より多くの人に自分の変化と思いを伝えたいと思いました。

ご清聴ありがとうございました。

★ ★ ★ ★ ★

## 【スピーチコンテストの全出場者と演題(発表順)】

麥凌俊 (D・香港)	東京の電車
THONGAMPA SIRAPOP (E・タイ)	もしある日ドラえもんが机の引き出しから出てきたら、どうしますか
DEVINA NATALIA KRISTIN (A・インドネシア)	マリン・クンダン
CHONG JIE HAO (C・マレーシア)	おばあちゃん
韓禮悅 (B・韓国) 【優秀賞】	人生いろいろ
KHAW YEE LIANG (F・マレーシア) 【審査員特別賞】	怖いもの
WILLIAM KURNIAWAN (G・インドネシア)	東京に来てから
LWEE XIAO YU EVELYN (A・マレーシア) 【最優秀賞】	日本人になりつつある私
賴萱芸 (C・台湾) 【優秀賞】	わたしの記憶力
JANINE INTANSARI (E・インドネシア) 【努力賞】	老犬から学んだ3つのこと
羅心愉 (G・香港)	魔女の宅急便はわたし
ANDREW ANDERSON THIO (F・インドネシア)	世界で一番大切なこと
楊詠鋒 (D・香港)	しゃもじとチャーハン
LAYLA FELINA HAZANI (B・インドネシア) 【優秀賞】	怖ければ怖いほど



## &lt;進学関連&gt;

**卒業生との座談会**

4月30日、進学科の在校生と卒業生との恒例の座談会を行いました。

文系学部の座談会では東京造形大学、東洋大学、日本大学、桜美林大学に進学した4名の学生が、学部理系では芝浦工業大学、東京農業大学、在学中の卒業生2名が参加し、日本語の勉強はもちろんのこと、合格するためには、自分から必要なことを考え、計画的に勉強や準備を進めていく姿勢が必要だと熱く語ってくれました。

5月9日、大学院の座談会には、上智大学大学院、拓殖大学大学院、明治大学大学院に在籍中の3名が駆けつけてくれました。ここでも自立して行動する姿勢について話題になっていました。先輩の体験談を自分のものとしてくれることを願ってやみません。(木村)



★ ★ ★ ★ ★

**大学院志望者による研究計画発表会**

7月8日、「第1回研究計画発表会」を実施しました。この発表会は毎年2回、進学科の大学院志望者が、自身の研究計画書の内容についてJETの先生方の前で発表するもので、進学科の恒例行事となっています。今年は6名の学生が大学院を志望しています。4月から準備を進めてきた学生たちは、研究計画書を作成していく中で、「本当に研究したいことは何なのか」を問い、修正を重ね、この発表会に臨みました。

発表会では山口校長をはじめ、7名の先生方が発表を聞き、研究内容について質問をしました。緊張した面持ちでありながらも、先生方の鋭い指摘やアドバイスを聞く姿からは、より研究内容を深めたいという気持ちを感じました。学生たちにとって貴重な機会となったことでしょう。

次回の発表会は年末に実施されます。探求心を持ち続け、邁進してほしいと思います。(山下)



## &lt;就職関連&gt;

**就職セミナー15名参加**

4月22日、国内就職を考えている中級クラスの学生を対象に、校内で就職ガイダンスを行いました。

その後、5月13日に前期の校内就職支援セミナーを開講し、就職活動を頑張ろうと意を決した15名の学生が参加しました。セミナーは本来全5回ですが、今回は2回分のセミナーを1日にまとめて行ったため、全4回の講座となりました。(所要時間は例年と同じ)

今期も(株)Asia Linkの小川様を講師にお招きし、日本の就職活動についての理解を深め、自己分析をしました。その後、奥山信也先生による模擬面接を経て、各自の履歴書を完成させました。(6月10日、17日に実施)

**○企業経営者との意見交換会**

7月1日には東京商工会議所北支部きた経営塾より5名の企業経営者の皆様をお迎えし、恒例の意見交換会をおこないました。外国人材の受け入れ状況、入社後の様子、在留資格についてなど、様々な話題が上がり、大変学びの多い一時間半でした。

参加した学生からは、「『どんな時でも、一緒に働く仲間へのリスペクトを忘れないでください』という言葉が心に残りました。」「就職活動はとても不安ですが、がんばりたいです。」といった前向きな感想が上がりました。

**❀ 新任講師紹介 ❀**

4月、泉円香先生と阪本麻子先生が着任しました(非常勤講師)。二人とも日本語教師として長年活躍していらっしゃるベテラン講師です。



いずみみどか  
● 泉円香先生

「JETの温かい雰囲気と、先生方、学生の皆さんの熱心さを日々感じ、一緒に頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。」



さかもとあさこ  
● 阪本麻子先生

「これまで、タイやアメリカ、大阪で日本語を教えてきました。関東へは2年前に来たばかりです。皆さんと一緒に東京の魅力を見つけていければと思っています。」

# 春の遠足

5月10日、快晴。おなじみの葛西臨海公園へ行ってきました。学生123名、教師14名のほか、早稲田大学、明治大学、専修大学、桜美林大学から計7名の大学生も参加し、にぎやかな遠足となりました。

★ ★ ★ ★ ★

葛西臨海公園駅に集合し、そろったクラスからバーベキュー会場へ。食材を大事そうに抱え、わいわいおしゃべりしながら歩きました。会場に到着したら、調理開始！焼き鳥、パスタ、炒飯、サンドイッチ、ムルタバ、パッタイなど、出来上がった料理はクラスによってさまざまです。仲間と協力して作った料理の味は格別でした！



食事のあとは、海岸近くの広場でゲーム大会！今年は「借り物競争」「命令のとおり」の2つのゲームをしました。「借り物競争」ではお題になっている物を見つけては猛ダッシュ！応援にも熱が入ります。「命令のとおり」は、「右」「左」などの指示



に従って、その方向に腕を伸ばすというもの。ただし、指示が女性の声なら、言われた方向に、男性の声なら逆の方向にしなければなりません。これが結構難しい！

春の遠足は、各クラスの代表者がスタッフとして企画から携わり、学生主体で実施しています。今年も学生たちの頑張りで、思い出に残る楽しいイベントになりました。

★ ★ ★ ★ ★

## 【学生の感想】

### ●Lwee Xiao Yu Evelyn さん(マレーシア)

「一緒にゲームをしたり、料理を作ったりして、クラスのものごとを知る良いきっかけになりました。」

### ●Kakikawa Sena さん(タイ)

「新入生としては、一日中友達とお話しができて、新しいクラスメイトと仲良くなれて嬉しかったです。」

### ●張雋彦さん(マカオ)

「ゲームをした広場から富士山が見えました！」

# ホームステイ

## ○ヒッポファミリークラブ ホームステイ

5月25日～26日、ヒッポファミリークラブ主催の「週末1泊ホームステイ」が開催されました。今回は6か国21名(台湾、香港、韓国、マレーシア、タイ、インドネシア)の学生を受け入れていただきました。(郷野)

### 【学生の感想】

#### ●吳怡瑩さん(台湾)

「ホストファミリーと過ごした2日間はとても楽しかったです。小さいお子さんが2人いて、お母さん、お父さんと一緒に子どものお世話をするのは新鮮でした。妹がいない私にはすごくいい体験でした。朝、目が覚めるとお母さんがご飯を作っていて、家族のあたたかさを感じ、心がポカポカしました。皆と一緒に食べると倍美味しくなっている気がします。今回、ホストファミリーに出会えて本当によかったです。」

#### ●Lee Li Xuan さん(マレーシア)

「ホストファミリーの三石さんは親切でユーモラスな方でした。初対面にもかかわらず、私のことを自分の子どものように受け入れてくれました。今回のプログラムで、日本文化への理解を深められるだけでなく、マレーシアの文化を広めることもできました。三石さんが熱心に話を聞いてくれて感動しました。今後も勉強だけでなく、話し合ってお互いを理解することを大切にしたいです。」



## 大学生のインターンシップ受け入れ

5月31日から7月末までの約2か月、桜美林大学から4名のインターン生を受け入れました。午前中は授業見学、午後は事務作業や行事の準備などで活躍してもらいました。同大からの受け入れは今年で3年目です。

## 中学生の職場体験

若い世代にも日本語学校を知ってもらい、地域社会との繋がりを深めるため、JETでは中学生の職場体験活動を積極的に受け入れています。

前期は東京都立小石川中等教育学校(6月11日～13日)、北区立滝野川紅葉中学校(7月2日～4日)の2校から、それぞれ2年生2名が職場体験に来ました。

JETの留学生たちの熱気と日本語力に、海外や教育に興味を持つ中学生たちもびっくり。今回の経験を今後の人生の糧にしていきたいと語ってくれました。



# 交流会

## ○タイの高校生との交流会

4月17日～18日、タイの王立チットラーダ校の高校生6名が授業体験に来ました。これは同校と順天学園(北区)との交流活動の一環で、JETは2015年からお手伝いしています。18日にはEクラスと交流会をし、日本語で自国の文化を紹介したり、タイのダンスを披露したりしてくれました。タイ出身の在校生たちが、準備のサポートや通訳で活躍しました。



### 【学生の感想】

#### ●文旨宏さん(香港)

「高校生たちは色々な道具を準備していて、用意した(タイの文化を紹介する)ポスターも詳しくかったです。タイのダンスが一番印象深いです。日本語を勉強した時間は短いと思いますが、みんな日本語で頑張っていました。面白かったです。」

#### ●Watanapalin Tanyalux さん(タイ)

「高校生たちの紹介に違う国のクラスメイトが興味を持っているようでした。タイ人として、とても嬉しかったです。私はタイの文化について子供の頃から知っているのですが、そんなに特別な文化ではないと評価してしまいました。でもクラスメイトがタイの文化を初めて聞いた時の顔を見て、私は国の文化の価値を改めて考えました。」

## ○早稲田大学の学生らとの交流

4月17日、5月9日、6月19日に行われた、早稲田大学国際学生友好会(以下、WIC)主催の交流会に、JETから計20名の学生が参加しました。5月は「来日後の印象的な出来事」、6月は「日本の音楽」をテーマに、日本語で会話を楽しみました。3回とも、新入生が積極的に参加しました。習いたての表現を駆使してやりとりすることができ、達成感があつたと話してくれました。(郷野)

## ○夏の短期コースでの交流会

7月10日と8月7日に、夏の短期コース生と大学生との交流会を行いました。

7月はWICから5名の大学生が来てくれました。グループに分かれ、JETの学生が自分の国や町の有名なものを紹介した後、大学生におすすめの観光スポットなどを教えてもらいました。8月は、明治大学の国際交流サークル「生粋」から11名の大学生が来てくれました。授業で練習したロールプレイを発表したり、学生たちが考えたゲームで遊んだりしました。

学生からは、「年が近い日本人の話が聞けて嬉しかった」、「好きなものが同じで話が盛り上がった」、「美味しそうな店を教えてもらったので、帰国する前に行ってみます」という感想が寄せられました。(郷野)



## ○東洋大学での交流会

7月10日、進学科A、Bクラスで東洋大学(赤羽キャンパス)を訪問し、萩原喜昭教授の講義に参加しました。内容は「日本に住む外国人が日本で生活していくうえでの社会問題の解決に向けて、一緒に考えよう」というテーマで現役大学生との話し合いです。初めての交流授業でしたが、お互いに収穫の多い交流ができました。



今年は東洋大学との交流会を複数回行っていきます。次号で詳しくお伝えしますので、お楽しみに!(木村)

# 専門学校での体験授業

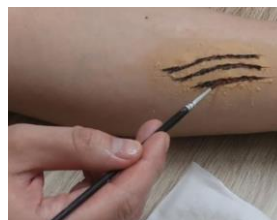
## ○特殊メイクで傷跡!? (東京ビジュアルアーツ専門学校)

7月11日、専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミーの講師をお招きし、特殊メイクの体験授業を行いました。Hクラス・Iクラス(サマーコースの初級クラス)の学生たち26名が参加しました。メイクで腕に傷跡を作るのですが、まるで本当の傷のようにリアル…。痛々しい見た目と、参加した学生たちのとても楽しそうな笑顔とのギャップが激しい一日でした。



### 【学生の感想】

#### ・Panyasakorn Satakhun さん(タイ)



「初めて特殊メイクをしました。私はあまり上手じゃありませんでした。日本人は速く話しますから、先生の日本語はちょっと難しかったです。Iクラスの友達とたくさん話して、仲良くなりました。楽しかったです。」

## ○抹茶のロールケーキ作り(東京製菓学校)

7月22日、東京製菓学校の体験授業に行って来ました。今回は学生24名が参加し、抹茶のロールケーキの作り方を教えていただきました。

まずはメレンゲ作り。「腕が疲れる～」と言いつつも、おいしいケーキを作るためにひたすら泡立て続けました。次に生地をオーブンで焼きます。そして生地が焼き上がったら、クリームを塗って、小豆を散らして、くるくると巻いて、できあがり!



…と、文字にすると簡単そうに見えますが、これがとても難しい。お菓子は甘いですが、作るのは甘くないのです…!

ケーキが完成したら、体験授業は終了です。がんばって作ったロールケーキはお土産に。参加した学生は翌日、「初めて作りました。難しいです」、「シェアハウスでロールケーキパーティーをしました」と話していました。

# ア ク テ イ ウ イ テ イ

## ○能楽鑑賞教室

6月19日、学生9名と能楽鑑賞教室(国立能楽堂)へ行ってきました。演目は狂言「柿山伏」と能「安達原」。「柿山伏」では、畑主と山伏の攻防に見入り、つい笑ってしまう学生たちでしたが、「安達原」では、狂言とは対照的な鬼女の恐ろしい姿と話の展開に引き込まれていました。(山下)



## ○歌舞伎鑑賞教室

6月20日と7月8日、延べ32名の学生と歌舞伎鑑賞教室に行ってきました。昨年10月に国立劇場が老朽化により閉場したため、6月はサンパル荒川で「恋飛脚大和往来一封印切一」、7月はティアラこうとう(江東区)で「義経千本桜」が上演されました。はじめは字幕を頼りに観劇していた学生たちでしたが、「封印切」最大の見せ場である公金の封印を切る場面では、息を吞んで忠兵衛を見守っていました。学生からは「友人に見栄を張り、言い合いになってしまうシーンで吹き出してしまいました」、「太夫の語り方と三味線のテンポから、忠兵衛の後悔が伝わってきました」との感想が聞かれました。(郷野)

## ○宝登山登山

7月20日、秩父にある宝登山(497m)に行ってきました。今年は学生2名のみの参加だったため、少人数でのんびりと頂上まで登ることができました。

帰りはロープウェイを使って景色を眺めながら下りました。その後長瀬の石畳で解散しましたが、学生だけで某アニメの聖地である秩父橋や川瀬祭りを見に行ったりと秩父を満喫したようです。(森山)



## ○野球観戦

今年は夏恒例の野球観戦に2回行きました。8月8日の巨人対広島戦の東京ドームの試合には16名、8月23日の西武対楽天戦の西武ベルーナドームは、西武ライオンズのご招待で33名の学生が参加しました。8日は巨人の戸郷選手が打っては適



時打、投げては完封と大活躍。23日はジェット風船を飛ばし、学生も初めて見る光景に大喜びでした。

(石津)

# 浴衣を着て花火大会へ

7月23日、柴又の江戸川河川敷にて行われた葛飾納涼花火大会に行ってきました。毎年たくさんの学生が参加していますが、今年はなんと95名もの学生が集まり、共に美しい夜空の花を堪能しました。



花火大会に先立ち、7月16日と17日には校内で浴衣の着付け教室を実施しました。講師は卒業生のミッセル(陳紫瑩)さん(香港)。

今回は、この着付け教室に特に熱心に参加していた権容熙さん(韓国)と Sharren Gouwidjaja さん(インドネシア)へのインタビューをお届けします。

《Y→権さん、S→Sharren さん》

● 浴衣の着付け教室に二日間参加してみて、どうでしたか。

Y: ちょっと難しかったけど、二日間参加したから、最後の日はちゃんと自分で着ることができるようになりました。楽しかったです。

S: 初めてだったから、思っていたより難しかったのですが、花火大会の日にビデオを見たりしながら頑張って一人で着ることができました。

● (このインタビューは花火大会から少し日が経っていますが、)今「浴衣を着てみて」と言われたら、できますか…?

Y: えっと、70%ぐらい…。(笑)

● おお! (笑)

\* \* \* \* \*

● 初めての花火大会、印象に残ったことなどはありますか。

Y: 思った通りきれいでした。でもびっくりしたのは、とても広い場所で人も本当に多いし、思ったより時間も長かったことです。私たちがもう家に戻る時に、車でこれから花火を見に出発する人を見ました。花火が終わる30分ぐらい前でした。

S: 私はアニメみたいな経験だと思います。とてもきれいでした。通りにたくさん店があって、その食べ物もおいしかったです。

● 屋台がたくさんありましたね。何か食べましたか。

S: 名前は覚えていませんが…、おいしかったです。(笑)

Y: 私は屋台じゃなくて、コンビニでやしそばを買って、食べました。(笑)

\* \* \* \* \*

● 最後に、後輩の皆さんに着付け教室の魅力をお願いします。

Y: 日本でしかできない体験です。

日本の伝統も楽しめると思うから、一回してみたらいい経験になると思います。

S: レンタルをしなくても、自分で着られるようになります。日本にいる時だけじゃなくて、浴衣を買ったら、国へ帰ってからも着られます。友達にも着方を教えてあげられますよ。



↑権さん(左)とSharrenさん(中央)講師のミッセル先生(右)と



# 学 校 日 誌

- 4月1日 プレースメントテスト
- 4月2日 入学式 (8面)
- 4月4日 前期授業開始
- 4月9日 進学科 大学見学(早稲田大、立教大)
- 4月12日 よむよむ会(多読) 開始
- 4月17日、18日 タイの高校生 体験授業 (5面)
- 4月17日、5月9日、6月19日 WIC 日本教室 (5面)
- 4月22日 就職ガイダンス (3面)
- 4月30日、5月9日 進学科座談会 (3面)
- 5月10日 春の遠足 (4面)
- 5月13日 就職セミナー(AsiaLink) (3面)
- 5月14日 北区日本語教室 スタート (8面)
- 5月18日 東洋大学での交流会
- 5月25日、6月8日  
ヒポファミリークラブホームステイ (4面)
- 6月10日、17日 就職セミナー(履歴書・面接指導) (3面)
- 6月11日 漢字クラス 進級テスト
- 6月11日～13日 小石川中 職場体験 (4面)
- 6月16日 日本留学試験(EJU) (1面)
- 6月19日 能楽鑑賞教室 (6面)
- 6月20日 歌舞伎鑑賞教室 (6面)
- 6月24日 進学科合同模試
- 6月25日 理事会・評議員会 (7面)
- 7月1日 サマーコース スタート (8面)  
企業経営者との意見交換会 (3面)
- 7月2日～4日 紅葉中 職場体験 (4面)
- 7月3日 金箔はり体験 (8面)
- 7月5日 避難訓練、茶道体験
- 7月7日 日本語能力試験(JLPT)
- 7月8日 歌舞伎鑑賞教室 (6面)  
研究計画発表会 (3面)
- 7月10日 東洋大学訪問(進学科) (5面)  
大学生との交流会(SNIE) (5面)
- 7月11日 専門学校体験授業(東京ビジュアルアーツ) (5面)
- 7月12日 国立科学博物館見学
- 7月15日 高田馬場管絃楽団コンサート
- 7月16日、17日 浴衣着付け教室 (6面)
- 7月17日～19日 豆乳試飲会(キッコーマン)
- 7月18日 Shibusawa Festa (8面)
- 7月20日 宝登山ハイキング (6面)
- 7月22日 専門学校体験授業(東京製菓学校) (5面)
- 7月23日 葛飾納涼花火大会 (6面)
- 7月24日 紙の博物館見学(日本事情)
- 7月25日 スピーチ大会 (1、2面)
- 7月29日～8月9日 日本語会話コース (8面)
- 8月5日、6日 日本語学校教育研究大会 (8面)

- 8月7日 大学生との交流会(SNIE) (5面)
- 8月8日、23日 野球観戦 (6面)
- 8月26日～30日、 期末テスト週間(基礎科)

## 新評議員と新監事

6月25日、理事会と評議員会が開催され、任期満了となる役員と評議員の選任がおこなわれました。新たに評議員に就任したのは、卒業生の崔暁倩さん(台湾・1992年卒)と練禧瑩さん(台湾・2005年卒)、タイのキングモンクット工科大学教授のコーシン・チャムノタイ先生です。また、(株)いさみや洋装の小澤徳代表取締役が、新監事に就任しました。

## 終了生から後援会に寄付金

今年短期コースを終了したご夫婦(匿名希望)から、後援会に10万円の寄付をいただきました。短い期間でしたが、JETでの留学生活は大変楽しかったと話してくれました。ご主人は定年退職後、奥様と趣味で日本語を勉強してきました。お二人が台湾で日本語を教わっている成人学校の先生は、JETの卒業生、練禧瑩さん(2005年卒)ですが、教え方が上手いと、こちらも評判です。

## さようなら、横手さん

5月4日、元事務長の横手房栄さんがお亡くなりになりました。83歳でした。

横手さんは、金美齡先生のお子さんが幼かったころ東京でお世話をしていましたが、その後は福岡で会社勤めをしていました。1992年、「日本語学校冬の時代」に、金校長(当時)から、最も信頼できる経理のエキスパートとして招聘され、JETの経営状況の改善に大きく貢献しました。寮の運営では、「寮母さん」として昼夜を問わず、親身に学生の面倒を見ました。元日には、自宅に多くの寮生たち(横手さんは「娘」、「息子」と呼んでいました。)を呼んで新年会を開き、心づしの手料理を振る舞っていました。

持ち前の明るさと気風のよさで、どの教職員からも、どの学生からも慕われる、まさにお母さん的な存在でした。

2011年に退職後は、2018年まで理事会で監事を務めました。

衷心よりご冥福をお祈りいたします。

(井上靖夫)



↑横手さん(中央)と娘たち

# 4月生57名が入学

## 前期は7クラス体制でスタート

4月2日、ハイライフプラザいたばしにて4月生の入学式を行いました。台湾、香港、マカオ、韓国、インドネシア、マレーシア、タイ、コスタリカ、ネパールから計57名が新たにJETの仲間に加わりました。

入学式では、山口校長が祝辞を述べました。「新しい生活の中で、たくさんの“初めて”を大切に感じて欲しい」、「スマホで調べるだけでなく、興味を持って、たくさんの人と出会い、いろいろなところに出かけていってください」と、これから留学生生活をスタートする新入生へのエールを送りました。

授業は4日にスタート。日本語クラス(初級レベル)が2、日本語クラス(中上級レベル)が3、大学・大学院進学を目指す進学クラスが2、合計7クラスを開講しました。

## 夏の短期コース

### 初級・中級の2クラスを開講



今年も夏の短期コース、通称「サマーコース」を開講しました。(7月1日から26日までは「総合日本語コース」、29日から8月9日までは「日本語会話コース」。)台湾、香港、アメリカ、インドネシア、タイから計29名が集まりました。

サマーコースは、花火大会、専門学校の体験授業、日本人との交流会など、とにかくイベントが盛りだくさん!日本の夏を満喫しました。

## 令和6年度 日本語教育研究大会

8月5日、6日、(一財)日本語教育振興協会が主催する「日本語学校教育研究大会」が、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開かれました(オンライン配信とのハイブリッド形式)。毎年行われているこちらの大会ですが、近年はコロナの影響でオンライン開催のみだったため、対面での実施は実に5年ぶりでした。JETの教員も参加し、多くの学びを得ました。

昨年度に引き続き、山口校長がこの大会の実行委員を務めています。

## 輪島塗の垣内先生と金箔体験

### 能登半島地震支援

7月3日、輪島塗工芸作家の垣内幸彦先生による輪島塗&金箔ワークショップが行われ、18名が参加しました。垣内先生は、元旦の能登大地震で被災され工房を失うも、創作活動を再開されています。JETでも募金活動等で応援していますが、そのお礼をなされたいとのことで金箔体験をご指導くださることになったのです。被災後初めて作った輪島塗のスプーンに金沢の極薄金箔をのせていきます。再開、再生のきらきら作品が完成しました。(得猪)



## 講演と講談で「渋沢栄一」を聴いた!

7月18日、北とびあ(北区)で行われた渋沢栄一記念講演会にCクラスの学生ら21名が参加しました。作家の鹿島茂氏の講演と講談師神田京子氏の講談の2本立て。黄佳淳さん(台湾)は、「今年1月にも神田京子を聴いたけどあのときは速くて半分しか理解できなかった。今回はいろいろ勉強して聞く力は上がって70%わかってうれしい。ユーモアがある講談は渋沢の人生がもっと理解しやすくなる」。権容熙さん(韓国)は(鹿島茂氏の講演で)「渋沢の『モノを作ることやサービス向上のために競争が必要だ』という考えは今は当然のことだけど昔はそうではなかったことに驚いて、渋沢がいなかったら日本は今どうだったか気になったり、パリ万博で人を集める工夫をしたのがすごいと思った」。2時間強連続の日本語シャワーを楽しみました。

(得猪)



↑講演会の企画も手掛けた越野理事長を囲んで

## 北区日本語教室スタート

5月14日、2024年度第1期の北区日本語教室が3クラス体制(計59名)でスタートしました。昨年同様、北区からの依頼でJETの講師が授業を担当しています。